

北海道大学獣医学部

自己点検・評価報告書

平成22年度～平成25年度

目 次

はじめに

I 総論

1. 教育理念と目標	4
2. 沿革	4
3. 組織体制	6
4. 組織改革と将来構想	6
5. 中期目標・中期計画	8

II 教育

1. 教育目的（目標）と特徴	12
(1)目的（目標）	12
(2)特徴	12
2. 教育の実施体制	12
(1)教育組織の編成	12
(2)教育の実施体制	13
(3)教育改革に取り組む体制	13
3. 学生の受入	14
(1)アドミッション・ポリシー	14
(2)入学者選抜の実施体制	15
(3)入学者選抜方法の工夫	16
(4)入学者数・収容者数	16
(5)平均的な在籍期間	17
(6)社会人学生の受入	18
(7)留学生の受入	18
4. 教育内容と方法	19
(1)教育課程の編成	19
(2)教育の方法	20
5. 学生支援	27
(1)学生へのガイダンス	27
(2)留学生の指導	28
(3)経済的支援	28
(4)表彰制度	28
6. 教育の成果	30
(1)履修・修了の状況	30
(2)進路・就職の状況	30
(3)国家試験の合格状況	30
(4)学修に対する学生の評価	31
(5)学生が身に付けた学力や資質・能力	31
(6)教育成果に対する社会の評価	31
7. 教育の質の向上ならびに改善のための取り組み	32
(1)教育改善のための検討・実施体制	32
(2)ファカルティー・ディベロップメント（FD）の状況	32
(3)授業評価の実施状況	32
8. 教育活動（教育組織以外）	33
(1)教育活動の実施状況（教育組織以外）	33
9. オープンキャンパスの実施状況	34
(1)オープンキャンパスの実施状況	34

10. 特筆すべき事項	35
(1) 共同獣医学課程	35
(2) 4大学連携補助事業（国立大学改革強化推進補助事業「国立獣医系 4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」	35
(3) エジンバラ大学との交流	36
(4) 大学の世界展開力強化事業	36

Ⅲ 添付資料

はじめに

北海道大学獣医学部は、昭和 27 年の創設以来、今年で 63 年目を迎える。学部創設前の農学部時代も含めれば、既に 2,800 名以上の獣医師・獣医学士を国内外社会に送り出し、国内外獣医学の進展に大きく貢献してきたと自負する。

国立大学法人となつてからの本獣医学部は、現在の国内大学における獣医学教育改革の目標である「教育の国際水準化」に向けて、臨床教育の強化、国際連携など種々の先進的取組を積極的に進めてきた。それを代表するのが平成 24 年 4 月に設置、スタートした北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程である。

共同獣医学課程は、北海道大学と帯広畜産大学が互いの特長と強みを相互に補完して基礎から臨床まで全ての領域で世界に通用する獣医学学部専門教育の実現を目指すものである。共同獣医学課程では、あくまでもヒューマン・インタラクティブな教育を基本とし、主に担当教員が札幌-帯広間を移動する実施体制をとり、これを双方向遠隔授業や e-ラーニングで補うスタイルで運営している。北大・帯畜大共同獣医学課程は、南の共同獣医学部（山口大学・鹿児島大学）とともに「国立大学改革強化推進補助事業：国立獣医系 4 大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築（平成 24 年度～平成 29 年度）」に採択され、欧州獣医学教育施設協会（EA EVE）からの教育認証取得を短期的指標として、国際的に通用する獣医学教育体制・体系の整備・実践を日本において実現するという大きな役割を与えられた。私たちは、常にこの重責を意識し、相当の覚悟をもって自らの改革にあたらねばならない。

今回の自己点検・評価で対象とする平成 22 年度～平成 25 年度の期間には、エジンバラ大学との教育連携や「大学の世界展開力強化事業：日本とタイの獣医学教育連携（平成 25 年度～平成 29 年度）」によるカセサート大学との単位互換をとまなう学生の派遣・受入など、国際的な大学間連携も強化を進めている。

こうした試みは、いずれも道半ばである。当面の最重要課題は、共同獣医学課程の深化・進化、国際水準化を早期に推進すべく、北海道大学、帯広畜産大学と歩調を合わせながら、その仕組みの抜本的な改革を強力に推し進めることである。もちろん、単にグローバルスタンダードの達成だけでなく、両校の特色と強みを最大に活かす様々な工夫が必要である。その過程を通して日本における獣医学教育の規範を示し、その教育改善を先導し続けることは正に私たちの使命であり、かつまた獣医学、動物医科学の研究・教育のレベルアップに必ずや資するはずのものである。今回の自己点検・評価は、そのために現状の優れた点と問題点を十分に把握し、近い将来の改革戦略に活かすべく実施するものである。

平成 27 年 2 月 20 日

北海道大学獣医学部長
稲 葉 睦